

保護者の皆様

吹田市立吹田第六小学校
校長 田淵 久美子

令和3年度「学校教育診断アンケート」結果分析について

向春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に実施しました学校教育診断アンケートにつきまして、ご報告させていただきます。今年度もコロナ禍となり行事の制限がありましたが、できることは工夫を講じて実施してきました。保護者の皆様にご来校いただく機会が少なく残念ではありましたが、94%の高回答をいただき(令和元年度89%・令和2年度93%)嬉しく思います。感謝申し上げます。

今年度もご報告の前に、嬉しい出来事をお伝えしたいと思います。

ビオトープづくりにご尽力いただいている「すいた体験活動クラブ」の方のお言葉です。「たくさんの学校に体験活動の支援に行っていますが、この学校の子どもたちは、誰一人も手を抜かずに全員が一生懸命に働きます。本当にびっくりするほど動いて、頼もしく関心します。6年生だけでなくどの学年もすごいです。作業の横を通りかかる子どもたちの中には『がんばってください』『ありがとうございます』と声をかける子がいて、素晴らしい教育をしていますね。素晴らしい学校です。」

身に余るお言葉をいただき恐縮しておりますが、子どもたちや学校のことを褒めていただいたことを素直に嬉しく感じております。何よりも子どもたちの「自己有用感」を育ぶ1つになったと感じることを嬉しく思います。吹六っ子全員に大きな拍手です。

(ビオトープづくりの詳細は、後日学校だよりにて)

以下に集計・分析結果をお伝えするとともに、いただきました貴重なご意見を真摯にうけとめ、次年度への改善のため、教職員一同さらなる努力を積んでまいりたいと存じます。

【回答の仕方】


低学年(1年2年3年)の回答は2択


はい 


いいえ 

高学年(4年5年6年)と保護者の回答は4択

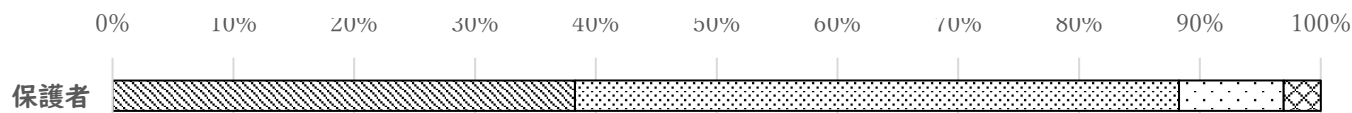
そう思う 

どちらかと言えばそう思う 

どちらかと言えばそう思わない 

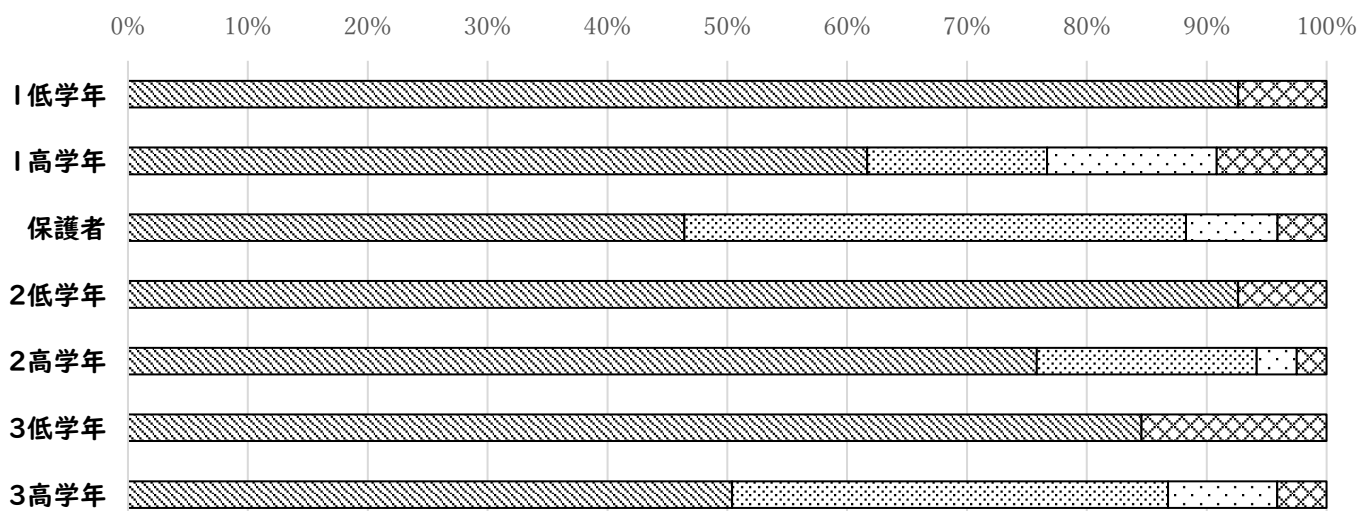
そう思わない 

(保) 学校教育目標や教育方針を知っている。
(HP にグランドデザインを掲載しています。)



88%の肯定的回答をいただきました。(令和元年度は78% 令和2年度は84%)
多様性教育を重点取組として教育活動を重ねて3年が経ちます。今後も教職員一同、教育目標の実現に向けて努力を重ねてまいります。

- 1 (低) 学校へ行くのが楽しい。
- 1 (高) 学校へ行くのが楽しい。
- (保) 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。
- 2 (低) 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- 2 (高) 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- 3 (低) 先生や友だちや学校に来た人にあいさつをしている。
- 3 (高) 先生や友だちや来校者にあいさつをしている。



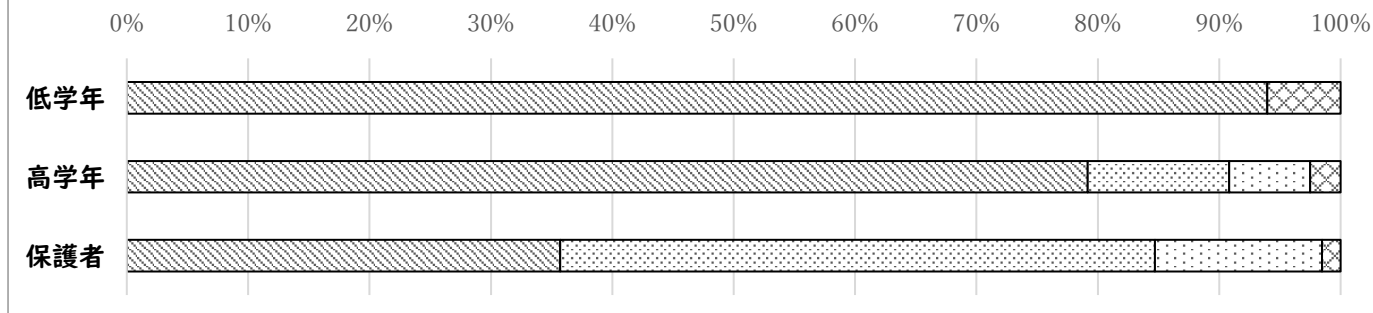
今年度も8割前後の子どもたちが「学校へ行くのが楽しい」と回答し、保護者の皆様からは9割弱同様の回答をいただきました。特に低学年では9割以上の子どもたちが「楽しい」と感じています。また9割以上の子どもたちが「友だちといっしょに楽しく遊んでいる」と回答しています。

「あいさつ」はよくできるようになっていきます。子どもたちも自覚しているでしょう。今年度も肯定的回答が8割を超えました。また、今年度のキーワード『自分から』あいさつする子どもたちが増えてきました。朝、正門で「おはようございます」と、子どもたちの声を聞くと気持ちが良いです。

本校の「めざす学校像」です。今後も「楽しい学校」づくりをめざします。

- ㊦ すなおに すてきに スペシャルに 子どもも教師も一人ひとりの個性を、大切に活かして、
- ㊧ いつでも どこでも だれとでも 人と繋がり人と関わりながら、それぞれが6年間過ごす
- ㊨ 6年間を 学校生活や教育活動を自律し、創り出し、いつも前向きに共創している学校
- ㊩ クリエイト

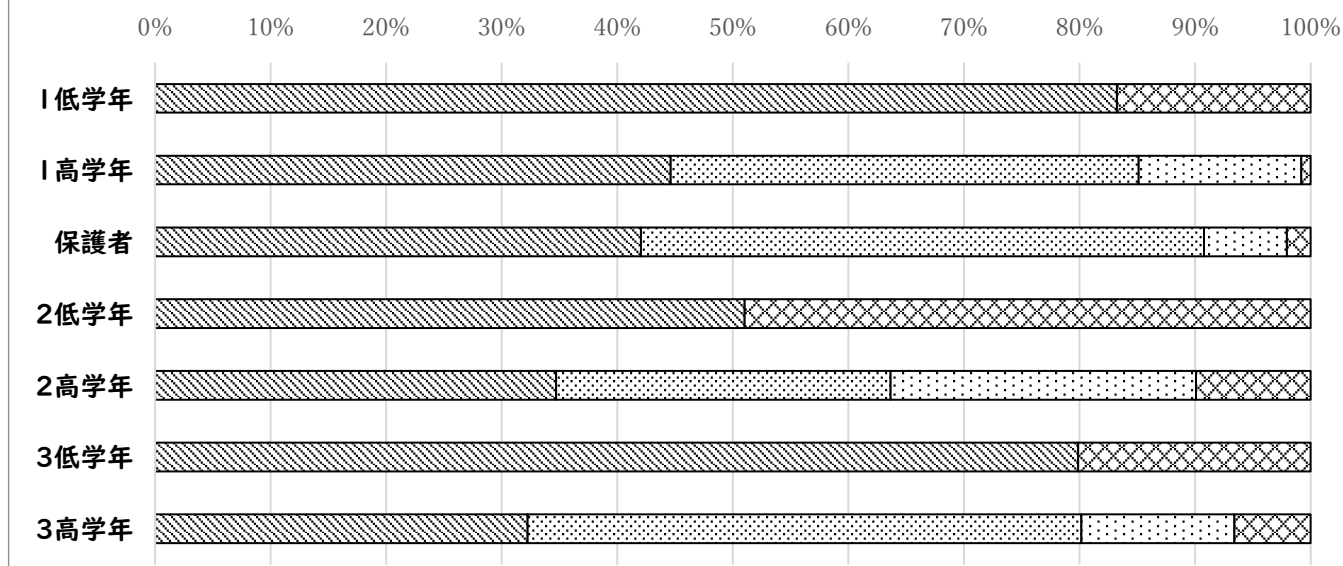
- (低) 遠足、吹六ミニコンサート、吹六オリンピックなどの学校行事は楽しい。
- (高) 林間学習、修学旅行、校外学習、吹六ミニコンサート、吹六オリンピックなどの学校行事は楽しい。
- (保) 子どもは特別活動(学校行事・児童会行事・清掃活動・校外学習・体験学習・宿泊学習等)を通して、自主性や実践力が育ってきている。



コロナ禍でありましたが、感染防止を講じ、工夫をしてできる行事を実施しました。1年生から4年生は校外学習（遠足）を実施。5年生は林間学習、6年生は修学旅行の宿泊行事を実施。昨年度、学校朝礼は全て動画でしたが、今年度は数回、体育館での集会を実施しました。児童会行事ではペア学年交流を中心に学期に1回以上の開催ができました。子どもたちにとって学校行事は特別なものの1つです。特に吹六っ子は行事が大好きで、楽しみにしています。宿泊学習や児童会行事には、自分たちで創り出す楽しさと、他学年を楽しませてあげようという、わくわく感があります。子どもたちの成長を育むうえで、大切なことだと認識しています。



- 1 (低) 学校の勉強はわかりやすい。
- 1 (高) 先生は教え方にいろいろな工夫をしているので授業がわかりやすい。
- (保) 教職員は分かりやすい授業・工夫された授業づくりに努めている。
- 2 (低) 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- 2 (高) 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- 3 (低) 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。
- 3 (高) 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。



8割以上の子どもたちが「授業がわかりやすい」と回答しました。保護者の皆様からは9割以上の肯定的回答をいただきました。残り2割弱の子どもたちの気持ちをしっかりと受けとめ、今後も授業改善に努めます。

「授業でわからないことは先生に質問しやすい」の設問では、8割の子どもたちが肯定的な回答をしています。これは昨年度、改善策として打ち出した『教室はまちがうところだ！』（まちがってもいい）の姿勢で授業をすすめること、そして休み時間や放課後、質問できる環境をつくることに努めた成果だと考えます。今後もこの姿勢で授業をすすめてまいります。

今年度も大きな課題としてみえたのは「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」の設問です。以下に整理して改善策をまとめます。

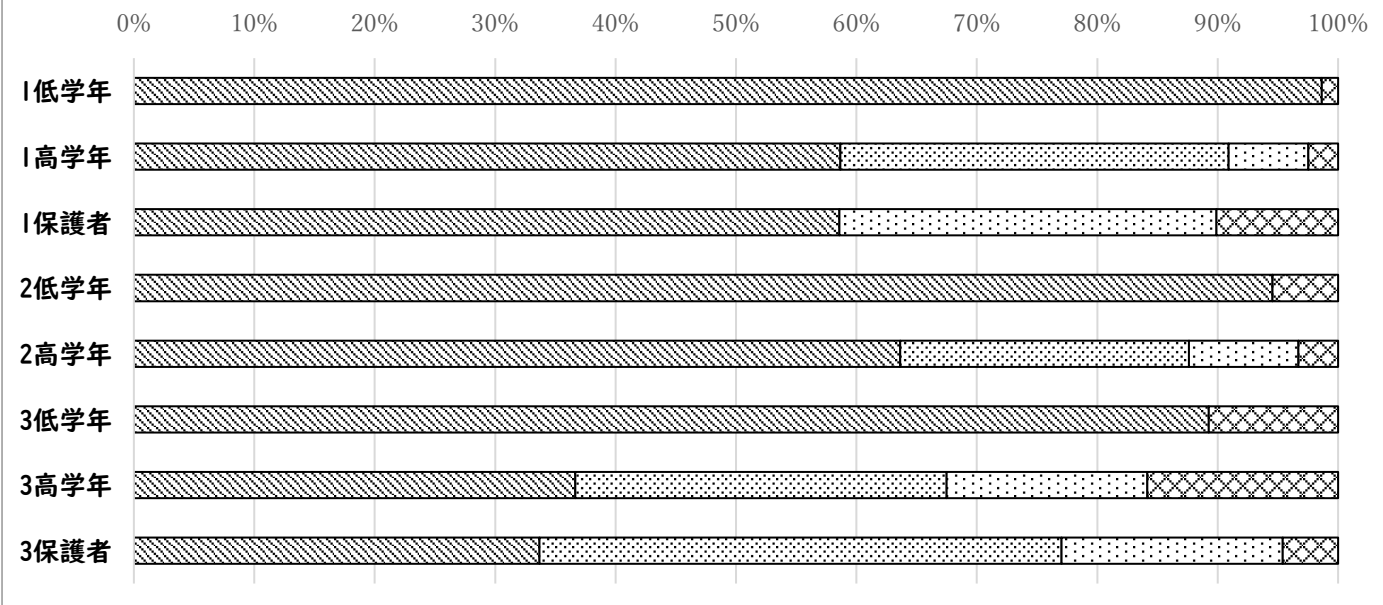
- ☆重点取組である「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」のさらなる充実を図ります。
- ☆言語力の向上に努めます。
- ☆「聴いて 考えて つながる（つなげる）」授業の充実を図ります。

【具体には】

- ① 授業の中で発表する機会をさらに増やします。
- ② iPadの活用や様々な表現方法を教えます。
- ③ コロナ禍であっても感染防止対策を講じて、ペア学習やグループ学習、調べ学習など、友だちとともに「学び合う」「高め合う」取組みを増やします。

どの教科の授業においても自分の意見を発表する場面や話し合う場面を増やして、対話的な学びの中から、深い学びへつながるよう努めます。

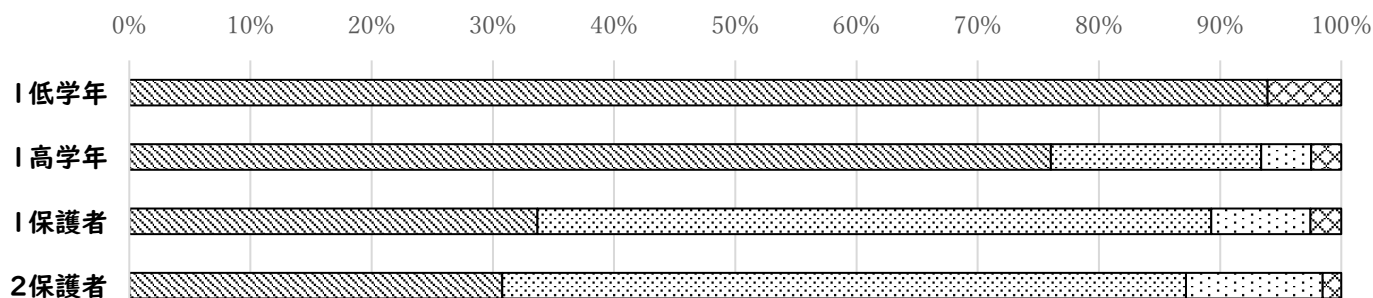
- 1 (低) 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- 1 (高) 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- 1 (保) 教職員は、子どものことを理解している。
- 2 (低) 先生は、自分がかんばったことをわかってくれる。
- 2 (高) 先生は、自分が努力したことを認めてくれる。
- 3 (低) 困ったことなどを話せる先生がいる。
- 3 (高) いろいろなことを相談できる先生がいる。
- 3 (保) 子どものことについて、気軽に教職員に相談できる。



低学年の8割以上、高学年の9割以上の子どもたちが「先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる」と回答しています。また9.5割の低学年、8.8割の高学年が「先生はがんばったこと、努力したことを認めてくれる」と回答しています。今後も一人ひとりの子どもに丁寧な対応を継続していきます。昨年度同様の課題も見えました。高学年の子どもたちが気軽に相談できるよう、担任以外の教職員も積極的に子どもたちと関わり、子どもに寄り添える先生チームを築いてきましたが、さらに努力を重ねてまいります。



- 1 (低) 「思いやり」「あたたかい聴き方 やさしい話し方」について教えてもらっている。
- 1 (高) 「思いやり」「あたたかい聴き方 やさしい話し方」について教えてもらっている。
- 1 (保) 学校は、一人ひとりを大切にして、思いやりの心を育てている。(重点取組み)
- 2 (保) 重点取組みである多様性教育を理解している。



「思いやり」「あたたかい聴き方 やさしい話し方」が浸透しています。学校評議員様から「『死ね』や『うざい』という言葉が聞かなくなった」というご意見をいただきました。

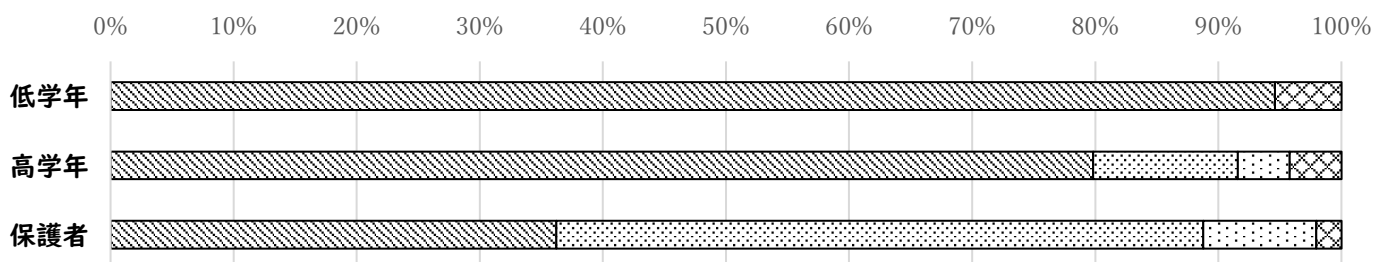
保護者の皆様の理解もさらに大きくなりました。「学校は一人ひとりを大切にして、思いやりの心を育てている。」の設問では90%の肯定的回答をいただきました。

(令和元年度73% 令和2年度83%)

「重点取組みである多様性教育を理解している。」の設問では87%の肯定的回答をいただきました。(令和元年度80% 令和2年度79%)

今後も教育活動の充実を図るとともに、取組みを発信していきます。

- (低) いじめは、してはいけないことだと思う。
- (高) いじめは、どんな理由があっても許されないと思う。
- (保) 学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。

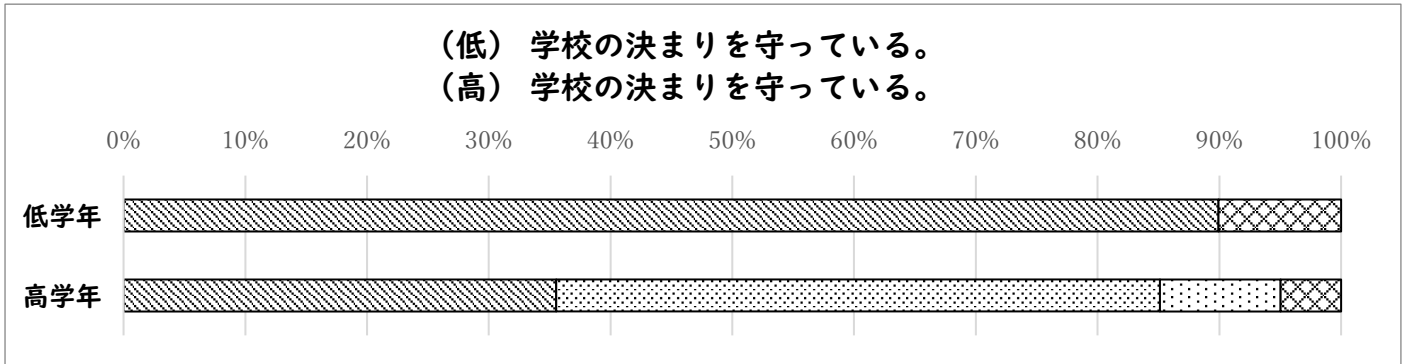


9割以上の子どもたちから「いじめはしてはいけない」「いじめは許されない」の回答がありました。保護者の皆様からは89%の肯定的回答をいただきました。

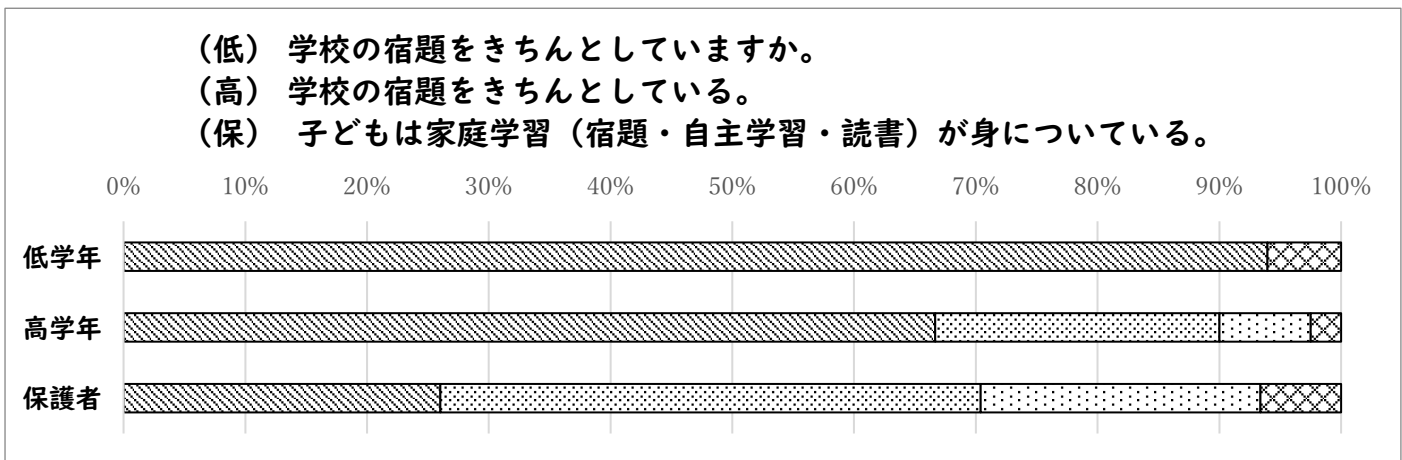
(令和元年度74% 令和2年度82%)

今年度もいじめ予防授業を3回実施し、学校風土調査も2回行いました。子どもたちの中に「シンキングエラー」や「アンバランスパワー」の言葉が定着しつつあります。

教師団においてはさらなる生徒指導体制の構築をして「いじめを認知した際の対応を迅速かつ丁寧にすること」に力を入れました。今後も子どもたちの変化や行動にアンテナを高くして「気づく」こと、子どもの気持ちに「寄り添う」ことに努め、100%の肯定回答をめざします。

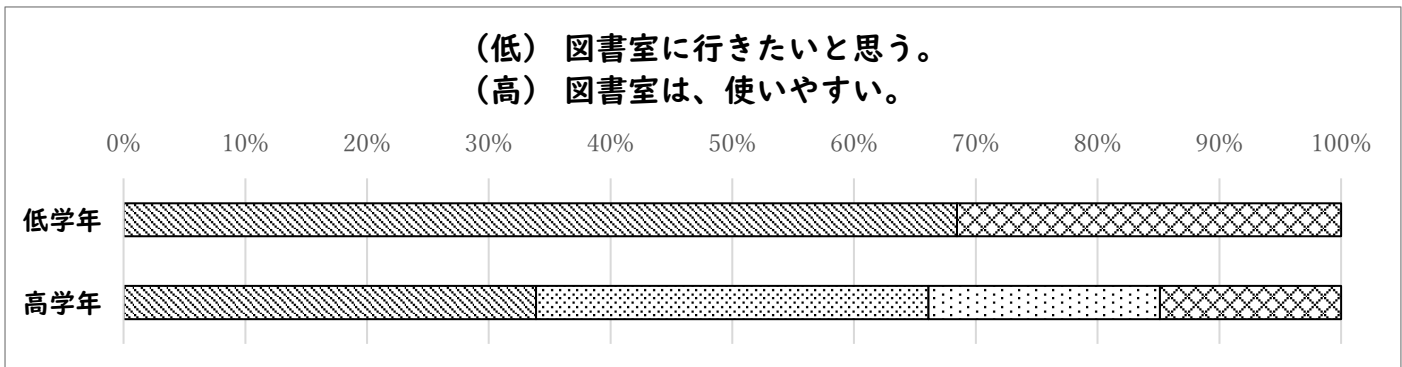


低学年、高学年ともに、肯定的回答が向上しています。どの教員も折に触れ、ルールやマナーの話をしてきたこと、掲示物や「歩こうウイーク」などの取組みが、子どもたちの成長に繋がったと分析します。

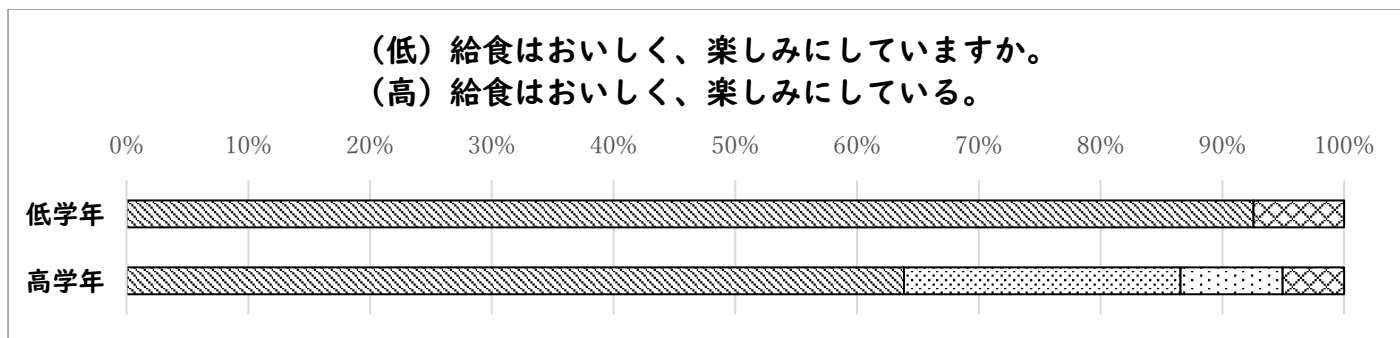


低学年では9割以上の子どもたちが宿題をしていると回答している中、保護者の皆様からは家庭学習が身につけているのは7割であるという回答でした。私たち教師団も保護者の皆様同様、7割くらいであろうと把握しております。子どもたちの認識では、家で宿題をしてなくても、翌日学校での休み時間等にすれば、肯定的回答をしている可能性があります。宿題を家ですることには意義があります。宿題や読書を含む家庭学習の大切さは、子ども自身が実感するのはまだ難しいでしょうが、大人は、小学校の頃から家庭学習の習慣をつけていくことで、中学校や社会に出た際に必ず役に立つことを知っています。

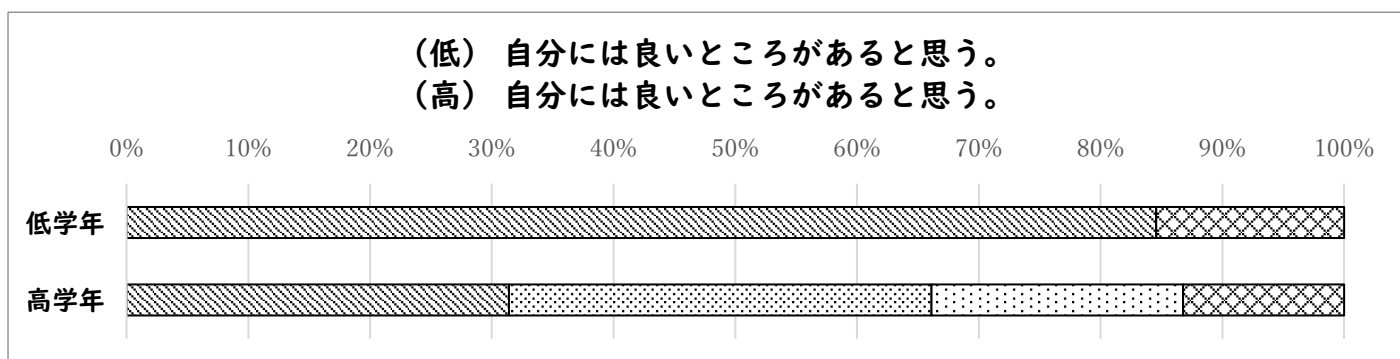
どうぞ、ご家庭におかれましても、子どもたちが前向きになる助言をお願いします。



低学年、高学年ともに肯定的回答が7割を切っています。吹六っ子の課題は「活字を読む」「読書をする」ことにあります。まずは、読書支援員とともに、休み時間や放課後に「行きたい」と思える図書室づくりを努めます。



2年も続く黙食の中ですが、9割前後の子どもたちが、給食を楽しみにしているという高回答率です。今年度は栄養士の配置もあり、給食指導のみにせず、全学年で食育の学び・取り組みを実施いたしました。今後も子どもたちの健やかな成長を育ててまいります。



この設問においては、昨年度中に3つの具体的な改善策を提案して、今年度、すべての改善策を実施しました。

- ① 「新しい生活様式」で学校行事を再開いたします。
特別活動での取り組みがコレにあたります。
- ② セサミストリートカリキュラム(セサミの授業)の時間数を増やします。
年間5時間の授業を実施しました。
- ③ 子どもたちが、おうちの方から「ほめてもらう」ことが、たくさんあるように教育活動の取り組みを発信していきます。
「学校だより」や本校のホームページ「吹六ぎゃらりい (校長ブログ)」

成果があらわれたのは、低学年です。85%の肯定的回答がありました。昨年度は69%でしたので、大きく向上しました。

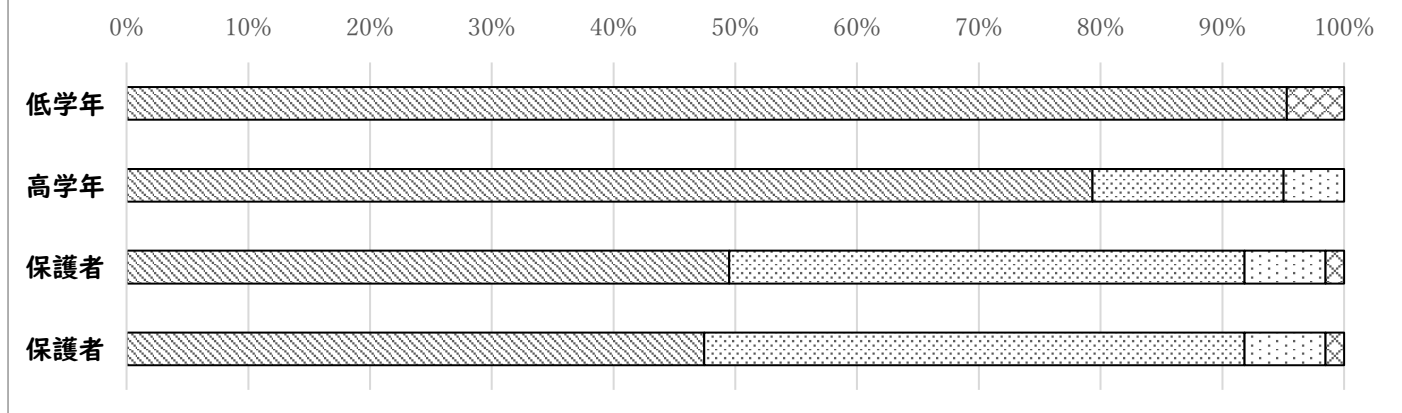
高学年は66%であり、昨年度の69%からさらに低下する回答となりました。

低学年高学年ともに、9割の子どもたちが「先生は、がんばったことや努力したことを認めてくれる」と回答している中で、回答の開き方(差)に、再度、取り組みの検討を要すると考えています。

子どもたちは一人ひとり持ち味があり、みんなちがってみんないいのです。子どもが自分自身を認め、ポジティブに捉えられるよう、学校ではより一層、「認める」「認め合う」活動に力を入れることと「自信をつける」教育活動の充実を図ります。

「自己肯定感」や「自尊感情」を高めるには、ご家庭と学校がともに協力し合い、連携しあって、達成できるものだと考えております。子どもたち一人ひとりが、自分には「こんないいところがある」「こんな素敵なおところがある」と自信をもって言える子どもたちを、ともに育てていきましょう。

- (低) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- (高) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- (保) 台風・地震、その他の緊急時の対応について知っている。
- (保) 学校は、安心安全な学校生活を送れるよう、危機管理に努めている。

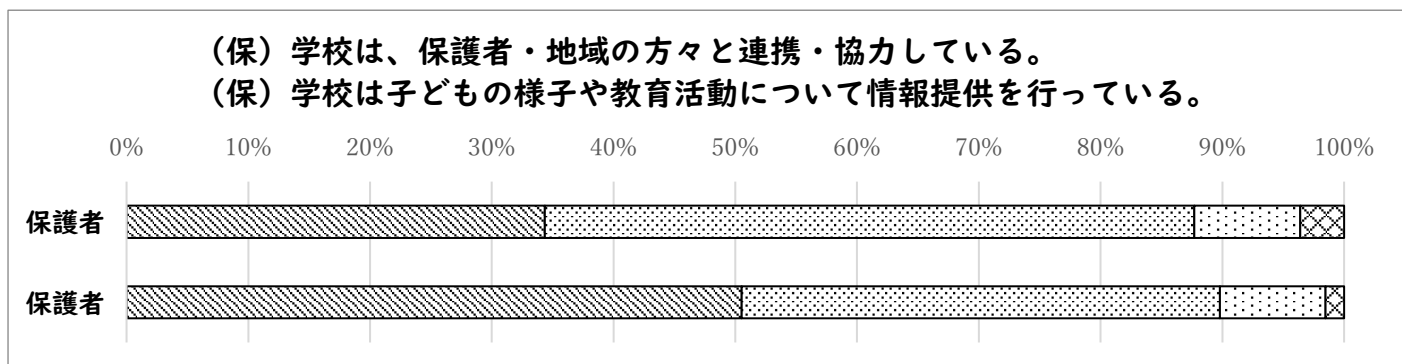


今年度も緊急時（災害・不審者侵入等）に備え、全教員と一部の非常勤職員がトランシーバーを携帯して対応できる手立てをとりました。

1月17日は吹六保育園と地震による合同避難訓練を実施しました。保育園の園児たちには、運動場へ避難する吹六っ子の様子もみてもらいました。実際、地震が起こったとき、吹六小に保育園の子どもたちや地域の方々が避難してきます。吹六の子どもたちには、そんなことも知ったうえで行動してほしいと思います。

学校朝礼では登下校中の身の守り方をつたえました。各学級で振り返り指導もしました。何よりも最優先されるのが、安全であると考えていますが、未曾有の災害が起きる可能性があることを、大人も子どもも充分理解する必要があると考えます。いつ・どこで・何が起こっても、まず自分の命は自分で守る力が不可欠です。

いざというときにとるべき行動を、継続して育み、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう努めてまいります。



コロナ禍が続く中、このような高評価をいただき大きな励みになります。今後も教職員・子ども・保護者（地域）を含めた「チーム吹六」を念頭に置いて教育活動に取り組んでまいります。

※ 重点取り組みである「多様性教育」に係る設問や「いじめ」「自己肯定感」などは細かい数字（%）でお知らせいたしました。